

■ 今月のメッセージ(2010年5月)

日本銀行富山事務所長

水上 誠一

未曾有の金融危機の後、世界経済は、金融市場でのお金の流れがストップするという「急性症状」と、バブルで膨れた資産（バランスシートの左側）が急激に収縮し、それに合わせるために負債（バランスシートの右側）を返済するばかりで新たな借入が行われず経済が縮小していく「慢性症状」（いわゆるバランスシート調整）に苦しんできました。

これまでのところ、「慢性症状」については引き続き調整途中である一方、「急性症状」については各国政策当局の潤沢な資金供給もあってかなり回復しています。米国では、金融市場の回復を背景に、金融危機で大きな痛手を被った大手金融機関が一転大幅増益となっています。その理由の一つが、ギリシャ危機に伴って増えた債券・株式の売買手数料の増加といえますから皮肉なものです。病み上がり起きた、ギリシャからの伝染病が心配ですね。

日本でも金融市場の正常化が進み、しばらく様子を眺めていた方々が動き出し、国内の低金利を嫌気して、多様化した投資商品の購入が活発化しているようです。

足許のデフレ状況を考えると、「投資よりも消費を」と言いたい気持ちもありますが、とりあえずそれは置いておくとして、次の文章が「○」か「×」か正しく答えられますか？

『毎月分配型の投資信託を持っていて、分配金は毎月定額で入ってくるが、今月の分配金利回りを見ると先月より上昇している。これは、この投資信託の成績が向上したためである。』

正解は「×」ですが、理由は説明できますか。分かる方は以下の解説を読む必要はありません。私は常々、「他人に商品内容や注意点をご自分で説明できない金融商品はお買いにならない方がいいですよ。」と申し上げております。上記のことも、投資の基礎知識として意識して購入していれば間違えることはないでしょう。

さて、「分配金利回り（年利）」は「(毎月の分配金×12)÷投資信託の基準価額」で求められます。これは、債券利回り（年利）が、「(クーポン<半年分の利息>×2)÷債券の購入価格」で求められるのと同じことです。皆さん、分数の分子が変わらないとき、分母がどうなると分数が大きくなるか、うん十年前に習いましたね。そう、「分母が小さくなると」分数は大きくなる。つまり、投資信託の基準価額が「下がる」と、分配金利回りが「上がる」のです。言いかえれば、この投資信託の成績は落ちているのです。「算数」の知識だけでもある程度の金融知識が得られます。この機会に今一度、電卓を手にも、お持ちの金融資産の基礎知識（利回りや具体的な損失の想定等）を確認してみたいはいかがでしょうか。